



2024年5月9日

各位

会社名 旭化成株式会社
代表者名 代表取締役社長 工藤 幸四郎
(コード番号：3407 東証プライム市場)
問合せ先 広報部長 坂元 善洋
(TEL 03-6699-3008)

連結決算における持分法による投資損失および減損損失の計上、
個別決算における関係会社株式評価損の計上並びに
通期連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、2024年3月期第4四半期連結会計期間（2024年1月1日～2024年3月31日）において、下記の通り持分法による投資損失ならびに減損損失を計上しました。また2024年2月7日に公表しました2024年3月期（2023年4月1日～2024年3月31日）の通期連結業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、併せてお知らせします。

記

1. 持分法による投資損失の計上（連結決算）

2024年3月期連結決算において持分法適用関連会社であるPTT Asahi Chemical Co., Ltd.の固定資産について減損損失を計上したことなどに伴い、同社に対する持分法による投資損失417億円を営業外費用として計上しました。

2. 減損損失の計上（連結決算）

当社マテリアル領域の基盤マテリアル事業を中心に、需要の減少や原燃料価格および物流費等の高騰などにより、厳しい事業環境が継続しております。直近の事業環境を踏まえ将来の回収可能性を検討した結果、2024年3月期第4四半期連結決算において、以下の通り、計906億円の減損損失を特別損失として計上しました。

事業	減損損失額
汎用石化・樹脂資産グループに関連する設備	584億円
再生繊維製造設備	122億円
ガスセンサ事業に関連するのれん等	40億円
その他の製造設備等	160億円

3. 関係会社株式評価損の計上（個別決算）

当社の持分法適用関連会社であるPTT Asahi Chemical Co., Ltd.の株式の実質価額が著しく低下したため、2024年3月期第4四半期の個別決算において、203億円の関係会社株式評価損

を特別損失として計上しました。なお、2024年3月期連結決算において、当該関係会社株式評価損は消去されております。

4. 2024年3月期通期連結業績予想と実績値との差異について

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 2,775,000	百万円 130,000	百万円 120,000	百万円 80,000	円 銭 57.71
当期実績 (B)	2,784,878	140,746	90,118	43,806	31.60
増減額 (B - A)	9,878	10,746	△29,882	△36,194	—
増減率 (%)	0.4	8.3	△24.9	△45.2	—
(ご参考)前期実績 (2023年3月期)	2,726,485	127,716	120,900	△91,948	△66.30

5. 通期業績予想と実績値との差異の理由

当連結会計年度の連結業績は、売上高はおおむね前回発表予想通りの結果となりました。営業利益は主にマテリアル領域の基盤マテリアル事業で交易条件の改善などにより増益となったことから前回発表予想を上回りました。また、経常利益は上記の持分法による投資損失を計上したことなどにより前回発表予想を下回りました。親会社株主に帰属する当期純利益は、本日「(開示事項の経過) 連結子会社間の株式譲渡による株式売却損(個別)、法人税、住民税及び事業税・法人税等調整額(個別および連結)の計上について」にて公表した通り、法人税、住民税及び事業税が241億円、法人税等調整額が423億円それぞれ減少しましたが、上記の減損損失を特別損失に計上したことにより、結果として前回発表予想を下回りました。

なお、詳細につきましては、本日公表しております「2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」も併せてご参照ください。

以 上